

今月の御教え

よるよなか

ここへは信心のけいこをしに来るのである。よくけいこをして帰れ。夜夜中、どういふことがないとも限らぬ。おかげはわがうちで受けよ。子供がある者や日傭取りはでてくるわけにはゆかぬ。病人があつたりすれば、捨てておいて参つてくることはできぬ。まめな時ここへ参つて信心のけいこをしておけ。

ひよう

……金光教祖御理解 第七十一節……

解説

お稽古事であれ何であれ、総べてに於いて、教えてもらつて、「なるほど！」と感じても、その後、繰り返し繰り返し反復練習しなければ、實力は身に付かないものであります。

故に、信心においても、日々、教会に参拝し、一心に祈念に効み、御取次を頂き、信心の稽古に勤しむことがなければ、御蔭を頂くことは難しいと思われれます。

日々の弛まぬ信心の稽古の積み重ねにより、わが身に徳を頂ければ、一朝事あるときには、何時でも何処でも『生神金光大神様、天地金乃神様』と一心に祈つて、大神蔭をいただくことができるのであります。前教主・四代金光様は『繰り返す 稽古の中に 自ずから 生まれ来るもの 新しきもの。』と、お詠みになられていますが、まさに稽古を積み重ねることにより、思わぬ徳と力を頂くことが出来るのであります。

明年は西条教会設立百十年の御年柄であります。共に信心の稽古に勤しまししょう。